

St. Luke's International University Repository

The evaluation of the picture books for 5-6 year-olds from the citizens.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 後藤, 桂子, 菱沼, 典子, 松谷, 美和子, 佐居, 由美, 中山, 久子, 大久保, 暢子, 石本, 亜希子, 有森, 直子, 岩辺, 京子, 今井, 敏子, 村松, 純子, Goto, Keiko, Hishinuma, Noriko, Matsutani, Miwako, Sakyō, Yumi, Nakayama, Hisako, Okubo, Nobuko, Ishimoto, Akiko, Aarimori, Naoko, Iwabe, Kyoko, Imai, Toshiko, Muramatsu, Junko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00015038

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



5～6歳児用「からだの絵本」に対する市民からの評価

後藤桂子¹⁾, 菱沼典子²⁾, 松谷美和子²⁾, 佐居由美²⁾
 中山久子²⁾, 大久保暢子²⁾, 石本亜希子²⁾, 有森直子²⁾
 岩辺京子³⁾, 今井敏子⁴⁾, 村松純子⁵⁾

抄 録

市民が主体的に保健行動をとれることをめざして、その基礎力と考えるからだに関する知識を普及させることを進めている。5年間にわたるプロジェクトで作成したからだの7系統についての絵本『わたしのからだ』のうち5冊を用いて、市民に健康教育をする機会があったので、その有用性を調査した。対象は、市民カレッジ参加者35名であり、『循環器』『呼吸器』『消化器』『骨と筋肉』『神経系』の5回である。各回の受講者は、20～27名で、4分の3が女性であり、50歳代～70歳代が7割を占めた。絵本の内容について無記名、自記式質問紙調査を行った。

絵本は、8割以上がわかりやすいと答えた。6～8割が知らないことがあった、ないし知らないことが多かったと答えた。このことは、大人へもからだの知識を普及させる必要性を示唆している。

また、この絵本を子どもに読ませることに対しては、多くの賛同が得られた。その理由は、『からだを知っているのはいいことだ』『子どもの年代特性に合う』『絵本の内容を伝えたい』『絵本のよさ』の4つに大別された。からだの知識を健康情報の基本と捉え、この知識を得ることで、いのちの大切さを理解し、主体的に保健行動がとれ、医療においては主体的に治療に関われる市民につながると仮定していた。今回の調査から、からだを学ぶことによって、保健行動と医療においては主体性をもつこと、それに加えて、いのちの大切さに気づくことが、市民主導の健康生成につながるという示唆を得た。

キーワード：5～6歳児、からだの知識、絵本、市民主導健康生成、いのちの大切さ

I. はじめに

今日の日本社会では、市民が主体性をもって保健行動や医療の選択を行うことが望まれている。マスメディアをはじめ、さまざまな本や雑誌には健康情報が氾濫し、一方医療の高度化が進む中で、市民と医療職間の情報量のギャップは大きくなっている。この情報量のギャップを埋め、適切な健康情報を選ぶ基礎力は、からだに関する知識であるという前提の下に、からだの知識を皆のものにすることをめざして、5年間にわたるプロジェクト研究を進めてきた(菱沼他, 2006; 松谷他, 2007; 佐居他, 2007)。

からだの知識を皆のものにするために、就学前の子ど

もにからだについて教えるプログラムをつくった。その教材として、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、骨と筋肉、生殖器系、神経系の7系統各1冊の絵本を作成した(以下この作成した7系統の絵本を『絵本』と称する)。プログラムは『絵本』の内容に基づいて作成した紙芝居を子どもに見せ、その後『絵本』を自宅へ持ち帰り、子どもが保護者と家庭でからだについての知識を共有するというものである。

『絵本』を作成するには、5～6歳児、その保護者、養育にあたる幼稚園教諭、保育士、養護教諭、看護師、関心をもつ市民、医療専門職の大学教員が、自由に平等な立場で意見を交換してきた。この中で看護大学の教員には、確かな専門知識を提供する役割が求められた(後

受付日 2008年2月29日 受理日 2008年7月4日

1) 埼玉県立大学, 2) 聖路加看護大学, 3) 聖路加看護大学非常勤講師, 4) 東洋英和女学院小学部, 5) Baby in Me

藤他, 2007)。内容, 表現方法, 絵, 言葉について検討を繰り返し, 4年目に第1刷, その後修正を加え, 5年目に第2刷の『絵本』を作成した(以下の『絵本』は第2版をさす)。

今後, この『絵本』を用いてからだの知識を普及させることが課題であるが, 市民がこの『絵本』をどう見るか, 子どもたちへからだの知識を普及させることに賛同するのかどうかも, 普及の成否の鍵になる。そこで市民に, 『絵本』の内容と子どもにからだについて教えることへの意見を聞き, 今後の修正や, 子どもへの知識の普及活動への示唆を得ることにした。

本研究の目標は次の2項である。1) 『絵本』の内容が今日の市民の既存の知識であるかどうかを確かめる。2) 『絵本』を用いて子どもにからだの知識を教えることに賛同するかどうか, その理由は何かを確かめる。

II. 研究方法

1. 研究対象

自治体と大学が連携した市民向けの健康講座に出席した, 市民35名を対象とした。

2. 講座の概要

この講座は, 18歳以上の区内在住, 在勤, 在学者が受講でき, 受講料は1,500円であった。今回の講座は, 平成19年10～12月にかけて, 隔週の5回シリーズ, 1回90分, 夜間の開講であった。テーマはからだの各器官のしくみと病気についてであり, 第1回は循環器系, 第2回は呼吸器系, 第3回は消化器系, 第4回は骨と筋肉, 第5回は神経系であった。講師は, 『絵本』作成に関わった大学教員と大学院生で, 各講座で該当する『絵本』を教材として配布し, 終了後は持ち帰ってもらった。

3. アンケート調査

『絵本』の内容について, ①話の中身は知っていたか, ②絵はわかりやすかったか, ③文章はわかりやすかったかの3項, 5～6歳の子どもが『絵本』を読むことについてどう思うか, 『絵本』が市販されていたら周りの人に薦めるか, 『絵本』の値段への意見の計6項目について, 自記式無記名のアンケート調査(A4判1枚)を行った。

表1 対象者数と性別

	循環器	呼吸器	消化器	骨と筋肉	神経系	合計(人)	(%)	
出席者	25	28	24	25	22	124		
回答者	総数	25	27	23	20	20	115	100
	男	5	7	6	5	4	27	23.5
	女	20	20	16	14	16	86	74.8
	不明	0	0	1	1	0	2	1.7

なお値段については第1回と第5回のみでたずねた。

アンケートは, 毎回の講座の開始時に配布し, 記入・未記入にかかわらず, 終了時に出口の回収箱に入れてもらった。

4. 倫理的配慮

本調査への協力の依頼文に, アンケートは講座とは無関係であることを明記し, 回答するかしないかは自由であることを記した。アンケートは無記名であり, 個人情報に含まれないものである。記入・未記入にかかわらず回収することで, 個人の回答協力の有無がわからないようにした。依頼文には, アンケートを『絵本』の修正と今後の活動に使用すると明記した。なお講座の案内には, この教材を使用することを明記してあった。本研究は著者が属する研究機関の研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

III. 結果

1. 対象者

各回の出席者数と回答者数および回答者の性別を表1に示す。出席者延べ124名のうち, 回答者は延べ115名(92.8%)であった。回答者の3/4は女性であった。年齢は30歳代～80歳代までに分布し, 50歳代～70歳代が7割を占めていた(図1)。

2. 『絵本』の内容について

各『絵本』の内容を知っていたかどうかについて, 図2に分布を示した。半数以上が全部またはほとんど知っていたのは, 「骨と筋肉」だけであり, 他の4系統は57～79%が「知らないことがあった」, ないし「知らないことが多かった」と答えていた。

絵がわかりやすかったかどうかについては, 「骨と筋肉」は100%, 「消化器系」「神経系」で90%, 「呼吸器」89%, 「循環器」84%が「わかりやすかった」と答えていた。「骨と筋肉」以外では, 10～15%が「わかりにく

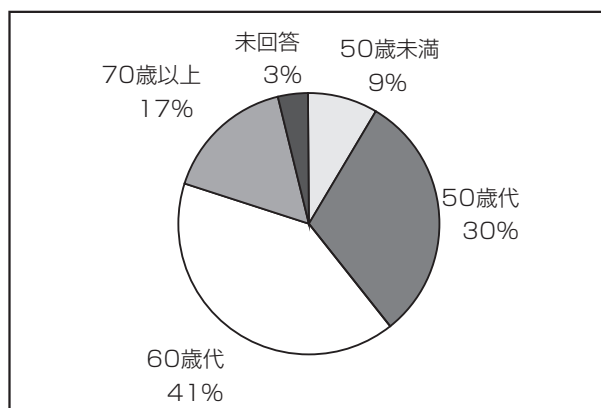


図1 回答者の年齢構成

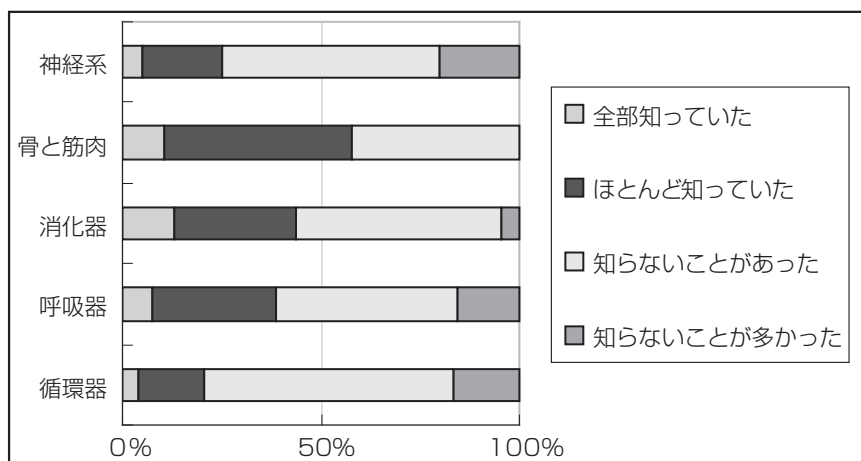


図2 絵本の内容

表2 絵本を子どもや周りの人に薦めるか (%)

		循環器 n=25	呼吸器 n=27	消化器 n=23	骨と筋肉 n=20	神経系 n=20
子どもが読むことに賛成	はい	17 (68)	24 (89)	22 (96)	18 (90)	19 (95)
	難しい / いいえ	6 (24)	3 (11)	0 (0)	1 (5)	1 (5)
	未回答	2 (8)	0 (0)	1 (4)	1 (5)	0 (0)
周りに薦める	はい	19 (76)	23 (85)	21 (91)	18 (90)	18 (90)
	いいえ	3 (12)	2 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
	未回答	3 (12)	2 (7)	2 (9)	2 (10)	1 (5)

いところがあり」,「循環器」で1名が「わかりにくかった」と答えていた。

文章のわかりやすさについては、「骨と筋肉」「消化器系」「神経系」は、全員が「わかりやすかった」と答えていた。「循環器」と「呼吸器」については、それぞれ19%、17%が「わかりにくいところがあった」と答えていたが、「わかりにくかった」と答えたものはなかった。

3. 子どもが『絵本』を読むことに賛成か

5～6歳児が『絵本』を読むことについて、賛成、難しいと思う、反対のいずれかをたずねた(延べ回答数115名)。賛成が延べ100名(87%)であった。「循環器」と「呼吸器」では、「難しいと思う」という回答も複数あった(表2)。その理由は、「親や先生の対応が必要」「関心をもたせるのはよいが関心があるだろうか」「循環器に呼吸の関係が書かれていないから」であった。

『絵本』が市販されていたら、周りの人に薦めるかについては、「薦める」が76～91%であった。「循環器」,「呼吸器」と「神経系」で、「いいえ」の回答があった(表2)。その理由は、「目立つ場所に置いておけばよい」「全体が一冊でもよい」「病院や図書館にあればよい」「自分がわからないので」であった。

子どもに絵本を読ませたい理由、薦める理由を表3にまとめた。回答者の50～84%が理由を記入しており、

理由は1人1～4項であった。理由の総数は144項で、類似している項目を集めて分類したところ、4つの大分類ができた。好奇心、興味、知的発育などの具体的記述からは、『興味をもつ年代』『からだに関心がある』『知的発達に合う』の3つのカテゴリーが抽出され、それを①【子どもの年代特性に合う】とした。「自分の存在の第一」「知っているほうがよい」「自覚につながる」「小さいときに」「幼児のときに」「自立するため」などの具体的記述から、『からだは人間の基本』『知っていることが大切』『小さいときに知る』の3つのカテゴリーを抽出でき、それを②【からだを知っているのはよいことだ】とした。「食育と運動の大切さ」「知識として知らせる」などの具体的記述から、『食育上よい』『知識として』の2つのカテゴリーとし、③【絵本の内容を伝えたい】とした。「絵がかわいい」「読んだら興味をもつ」「触ってわかる」「親が説明できない」などの具体的記述は、『楽しく見られる』『よくわかる』『興味をもつきっかけになる』『親が説明できない』の4つのカテゴリーになり、それを④【絵本のよさ】とした(表3)。

4. 『絵本』の値段について

『絵本』の値段について、1冊の値段、7冊組(解説書付き)の値段として、どれくらいが適当かを記入してもらった。1冊の値段については、第1回も最終回も4

表3 子どもに読ませたい理由

大分類	小分類	具体的記述内容
子どもの年代特性に合う	興味をもつ年代	非常に好奇心が強い からだや未知への関心がある
	からだに関心がある	からだに興味をもってくる 子どもはからだの話は好きだ うんちやおしっこやからだの話を知りたいがる
	知的発達に合う	理解力もある 知的発育の点でよい とてもよく覚える
からだを知っているのはよいことだ	からだは人間の基本	自分の存在の第一は肉体である、自分のからだのことだから、人間というものを知っていたほうがよい
	知っていることが大切	からだのことを知っているほうがよい 自分のからだのことは知るべきだと思う からだのことを知るのは大事、しくみを知るのは大切 からだをよく知り大切にする からだの知識ができることが自覚につながる いのちの大切さを教える
	小さいときに知る	小さいころからからだのことを教えるのは大切 若いときにからだのことを学ぶことが大切 小さいときからからだのしくみを知るのはよい 基本的なことは幼児のときに 大人になってからの基礎になる 自立するため
絵本の内容を伝えたい	食育上よい	うんちが汚いものでなくリンゴの残りとわかるのはよい 健康なからだをつくる食育の必要性を知る必要がある 食べ物の好き嫌いをなくすにつながる 食育と運動の大切さを教える
	知識として	知識として知らせる 知識として読ませたい、理解するために
絵本のよさ	楽しく見られる	絵本の感覚で楽しく見られる、絵がかわいい
	よくわかる	わかりやすい わかりやすいものでからだのしくみを知るとよい
	興味をもつきっかけになる	自分のからだを知るきっかけになる、からだを触ってわかる からだのしくみに興味をもつのはよい 自分のからだに興味をもつようになる、読んだら興味をもつ 小さいことから興味をもつきっかけがあるのはよい
	親が説明できない	親が説明できないので

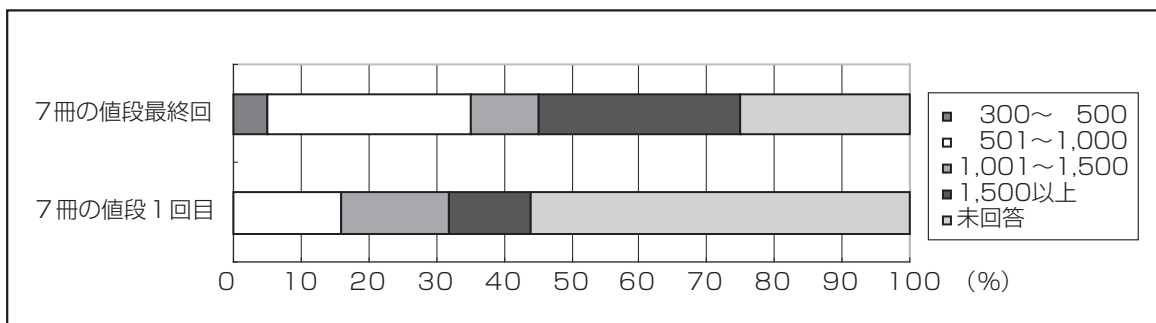


図3 7冊セットの値段

割が未回答であり、300円以下が多かった。7冊と解説書のセットの値段については、未回答が1回目は半数以上であったが、最終回では3割に減っていた。第1回では、501～1,000円、1,001～1,500円、1,501円以上がほぼ同数であったが、最終回では、501～1,000円と1,501円以上が30%ずつであった(図3)。1,501円以上と答えたものは、第1回は11人中3人、最終回では15人中6人と増加した。

IV. 考察

1. 今日の市民はからだを十分には知らない

5～6歳児用に作成した『絵本』であったが、内容をほとんど知っていた者が半数を超えたのは「骨と筋肉」1冊のみで、他の4冊は「知らないことがあった」、または「知らないことが多かった」者が、6～8割を占めていた。市民講座に出席して学びたいという意欲があり、50歳以上が多い20～27名のデータであるが、からだのしくみについては知られていないことが、明確に示された。

養護教諭への聞き取り調査において、子どものけがや発熱に対応できず、学校に行かせる親や、自分の健康管理ができない教員が増えているといわれていたが(菱沼他, 2006)、その背景には親や教員がからだのしくみを知らないことがあると推測できる。某区立図書館の医学・病気・健康に関する蔵書は約1万3千冊(蔵書約57万冊の2.3%)あり、テレビでも健康に関わる番組が毎日放送されているにもかかわらず、からだについての基本的な知識は市民のもとに届いていない現状であった。

子どもにからだの知識を学習する機会を設けるだけでなく、子どもを取り巻く保護者、保育者をはじめとした市民へも、からだの知識を普及させる必要があると考えられる。著者らが作成したプログラムは、『絵本』の内容に基づいて作成した紙芝居を子どもに見せ、その後『絵本』を自宅へ持ち帰り、子どもが保護者と家庭でからだについての知識を共有するというものである(松谷他, 2007; 大久保他, 2008)。『絵本』を用いての子どもへのプログラムを実施することによって、家庭へのからだの知識普及が図れるならば、市民がからだの知識を得る有効な機会となるかもしれない。

2. 子どもにからだを教えることへの賛同

子どもであろうと大人であろうと、【②からだを知っているのはよいことだ】という意見が多かった。『からだは人間の基本である』というように、人間にとってのからだの意味づけがなされていた。さらに、「からだをよく知り大切にする」「いのちの大切さを教える」と『知っていることが大切』ということを多く記述していた。これは、著者らが健康情報の基本としてからだを捉え、健

康とのつながりからいのちの尊さの認識をめざしたことよりもさらに、からだを人間の土台として捉えていた。からだを知っていることから、大切にする、自覚する、いのちの大切さにつなげた見方が示されていた。

【①子どもの年代特性に合う】として指摘されていることとも関係するが、興味をもつ年代、からだの話は好きだという幼児期から、からだのことを知るのはいよという意見も、多数あった。このことは、幼稚園、保育所の年長児を対象としたことが支持されたと考える。以前に行ったシンポジウムの参加者からのアンケート調査でも、子どもの時からからだを学ぶことには賛成意見が多かった。この調査の回答者は30歳代～40歳代で、女性が多く、73名のうち71名が賛成であった(佐居他, 2007)。今回の対象は、50歳以上が80%以上を占めるが、子どもの時からからだを学ぶことが支持された。異なる年代集団からの支持を得られたことで、この試みが社会に受け入れられる可能性があることが示唆された。

【③絵本の内容を伝えたい】ものには、食育との関連が挙げられた。社会で食育が大きく取り上げられており、子どもの生活に最も密着した食べ物、大人からみても課題になっていることが示された。絵本を用いることについて、【④絵本のよさ】で示されたように、興味をもつきっかけになり、わかりやすいという支持を得た。今回の5冊の『絵本』について、一部難しいと指摘された部分の検討、修正の必要はあるが、内容的には子どもに知らせるのに妥当といえてよいだろう。

3. からだを知ることの意味

今回、『絵本』を子どもに読ませることに、多くの賛成意見が得られた。最終回に『絵本』の想定値段が高くなっていったことは、『絵本』を使ってみて評価が上がった現れであろう。

このプロジェクトを開始するに際して、からだの知識を健康情報の基本と捉え、この知識を得ることで、いのちの大切さを理解し、主体的に保健行動がとれ、医療においては主体的に治療に関われる市民につながると仮定していた(菱沼他, 2006)。しかし今回の調査結果からは、からだの知識を健康情報と捉えるよりもっと広く、表3に示したように「自分の存在の第一は肉体である」「自分のからだのことは知るべきだ」「自覚につながる」「いのちの大切さを教える」「大人になってからの基礎になる」という人間存在の基本として捉える見方が示された。これは消化器系のプログラムを終えたあとの年長児の保護者から得た、「からだの見事さの理解、いのちを大切に、日常生活を大切にすることは順々に進むのではなく、同時に起こっている」という指摘(大久保他, 2008)と一致するものであった。そこで、今回の結果を踏まえ、からだを学ぶ意味に、保健行動と医療においては主体性と並べて、いのちの大切さに気づくことを別に取り上げ、図式化したものが図4である。

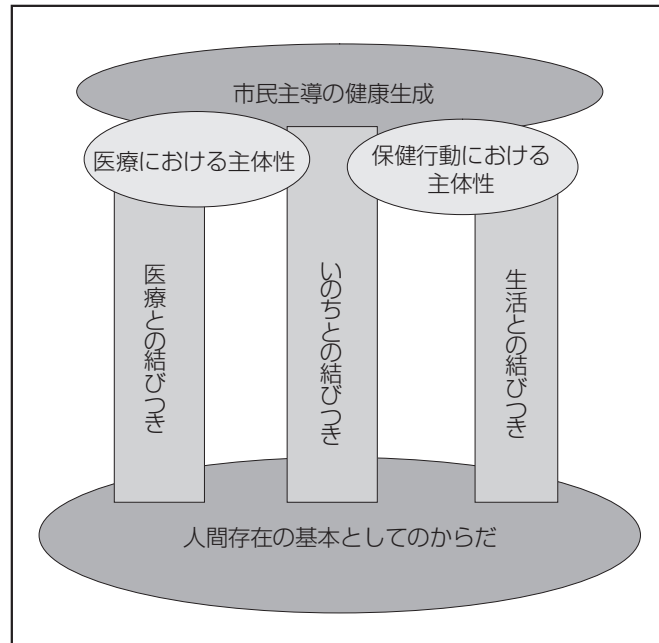


図4 からだを学ぶ意味

市民一人ひとりが、それぞれの経験や知恵に基づいて、自分にとっての最善の医療を納得して選択できるようになること、健康資源を活用して自らの健康を生成することを目的としてきたが、それ以上の意味づけが今回付加された。ただし今回のアンケートは、講座登録者35名のうち当日の参加者からの延べ115回答による意見であり、対象者数は35を超えず、各回はそのうちの20～27名の意見であるという限界がある。また、年代も50歳以上がほとんどを占めるという偏りがある集団であった。しかしこの集団は、健康講座の受講者という健康に関心の高い集団であり、講座の中では教材としての『絵本』を丁寧に読んだ集団であった。

今後、『絵本』の改善点を検討し、真に使える教材としての『絵本』の作成が課題であり、普及のための活動も進めていきたい。

本研究は聖路加看護大学21世紀COEプログラム「市民主導型の健康生成のための看護拠点形成」の一部である。

引用文献

後藤桂子, 菱沼典子, 松谷美和子, 他 (2007). 子どもがからだについて学ぶための教材作成の研究過程—

CBPR でみた *people-centered care*. 第27回日本看護科学学会学術集会 (2S-7-4-221).

菱沼典子, 松谷美和子, 田代順子, 他 (2006). 5歳児向けの「自分のからだを知ろう」プログラムの作製—市民主導の健康創りをめざした研究の過程. 聖路加看護大学紀要, 32, 51-58.

Israel, Barbara, A., Eng, Eugenia, Schulz, Amy, J., et al. ed. (2005). *Methods in Community-Based Participatory Research for Health*. Indianapolis: Jossey-Bass A Wiley Imprint.

松谷美和子, 菱沼典子, 佐居由美, 他 (2007). 5歳児向けの「自分のからだを知ろう」健康教育プログラム: 消化器系の評価. 聖路加看護大学紀要, 33, 48-53.

大久保暢子, 菱沼典子, 松谷美和子, 他 (2008). 幼稚園・保育園年長児向けのプログラム「自分のからだを知ろう」に対する評価指標の検討. 聖路加看護大学紀要, 34, 36-45.

佐居由美, 松谷美和子, 山崎好美, 他 (2007). 聖路加看護大学21世紀COEプログラム第7回国際駅伝シンポジウム報告 子どもと学ぼう, からだのしくみ—あなたはどれくらいからだを知っていますか?—駅伝シンポジウムにみる *People-Centered Care* の発展過程. 聖路加看護学会誌, 11 (1), 116-124.

The Evaluation of the Picture Books for 5-6 Year-Olds from the Citizens

Katsura Goto

(Saitama Prefectural University)

Michiko Hishinuma, Miwako Matsutani, Yumi Sakyō, Hisako Nakayama

Nobuko Okubo, Akiko Ishimoto, Naoko Arimori

(St. Luke's College of Nursing)

Kyoko Iwanabe

(St. Luke's College of Nursing, Part-time Lecturer)

Toshiko Imai

(Toyo Eiwa Primary School)

Junko Muramatsu

(Baby in Me)

There is a need for the average citizen to have independent knowledge of health and medical matters. We consider that the fundamental information concerning health means knowledge about the human body. During 5-year project, we have designed picture books of 7 human body systems. At the chance to teach local citizens with 5 of these books, the study was conducted to evaluate our books. Samples are 35 who are between 30 and 80 years old. About two-thirds of them are between 50 and 70 years old and three-quarters of them are female. About the content of picture books, the questionnaire was introduced at the end of each class. About 60-80 % of samples showed that the picture books had some parts which they didn't know. This result pointed that the diffusion of knowledge about the human body is necessary for not only children but also their parents and the average citizen. We got the positive answer for using these books for children education. Their answers are categorized into 4 groups: "good to know the body", "suitable to children's character", "want to tell the content of books", "excellence of books". From this study, we got impression that knowing the body makes citizens independent in their health and medical matters, and that in addition to this their awareness of importance of human life leads them to people-centered care.

Keywords : 5 - 6 year-olds, knowledge of human body, picture book, people-centered care, consideration for human life